

## 平成28年度生活支援体制整備事業の成果と課題

### 1 28年度の取組概要

本事業は、高齢者の生活支援の充実と社会参加の促進のために、地域支え合いネットワークを設置及び生活支援コーディネーターを配置する。地域支え合いネットワークは地域のニーズを把握し地域資源を活用した支援の方法を検討し、生活支援コーディネーターがニーズと資源をマッチングさせて推進していく。

28年度は、第1層生活支援コーディネーターを配置し、生活支援体制整備事業実施要綱に基づき古賀市の実情に合った事業の進め方について、国のガイドラインや先進自治体事例を参考にして検討を行った。

### 2 成果

#### ① 研修会への参加

第1層生活支援コーディネーター、社会福祉協議会職員(29年度コーディネーター)及び古賀市職員が福岡県や民間シンクタンクの様々な研修会に参加し、古賀市の実情に合った事業のイメージを作り、共有することできた。

#### ② 住民等説明会の開催

実際に地域で支援活動をしている方々に対して、事業説明及び協力依頼をおこない、29年度ネットワークの構築に向けて事業説明や協力依頼を行う対象や切り口について参考になった。

※ 社会福祉協議会理事会 10名 29.2.10、福祉会連絡会 30名 29.2.24、  
地域世話役の代表者等 30名 29.3.21

### 3 課題(ネットワークを構築するに当たり、地域等の意見や指摘を参考にし、課題とする)

#### ① 古賀市がめざす将来像が明確でない、古賀市が何をしたいのかわからない

→ ネットワークの構造や構成について全体像が複雑なため短時間で簡単に説明することが難しいが、パワーポイント等資料の工夫を行う。将来像は地域と一緒に描いていくことも説明する。

#### ② 地域で支援活動をしている人は既に多忙である、今以上に支援活動を増やせということか

→ 本事業は、新たな支援者の確保や既存の支援を整理し効率化することも含む点についても理解を促していく

#### ③ 生活支援コーディネーターは何をしてくれるのか

→ 地域のコーディネーターに対する大きな期待を損なうことがないようにしながら、コーディネーターは、ネットワークのアイデアが実現するように市民、地域、行政と共働するが、直接の支援実行者ではないことの理解を図る。

#### ④ 全部無償ボランティアが対応していくのか

→ 地域の支え合いを基本に無償・有償ボランティアで多くの課題を解決できる仕組み作りを進めながら、介護保険事業、行政事業も活用する地域包括ケアシステムの中で対応していくものであるとの理解を促していく

### 4 29年度の取組み概要について

① 古賀市社会福祉協議会に第1層生活支援コーディネーターを委託する

② できるだけ早く全市域の地域支え合いネットワーク準備会を立上げ、年度内にネットワークを構築する

③ 第1層、第2層地域支え合いネットワークの設置に向け、地域・団体説明会を実施する

④ 市民等啓発のために、地域支え合いネットワーク通信を創刊し、年3回発行する